

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390100966		
法人名	NPO法人ささえ愛ひかりの家		
事業所名	グループホーム ほのぼの		
所在地	熊本市西区河内町白浜イ2238番地		
自己評価作成日	平成30年9月30日	評価結果市町村受理日	平成31年1月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	平成30年10月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・今年で7年目を迎えるが、半分以上の職員は変わっていない ・看護師が常時いる為、状況に応じた適切な早期対応ができています ・年間行事である粽づくりや餅つきは、民生委員を始め地域のボランティアの方や包括支援センターからの協力あり、事業所やご利用者に対しての理解を深めてもらっている ・スタッフ全員が看取りの勉強会や研修を経て、実際事業所でも看取りの経験も行っている ・上記の経験から、家族も「最期がここで良かった！」との言葉を頂け、職員も自信に繋がっている ・山や海に囲まれた自然の中で、農繁期には地域の方々が行き交う中で声かけて頂いたり収穫物を持って来て頂いたり、地域交流は常日頃からできて安心して過ごせる環境にある

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開所時からホーム名がそのまま日常に表れており、のんびりと、ゆっくりと、ほのぼのとした雰囲気のある所である。経年とともに入居者の入れ替わりは進んでいるが、この地域に馴染みの入居者や職員も多く、秋になるとたわわに実ったみかん畑を懐かしく散歩したり、通い慣れたスーパーでの買い物や昔ながらのちまき作りなど、これまでの生活が続けられるようにとの思いで支援にあたっている。朝の支度や申し送りで忙しい時間に見守りとして入る職員をはじめ、11名の職員数は心強く、「私たち職員の言動は利用者の心に大きく影響します。立腹させない穏やかな気持ちになる言葉を使いましょう」との職員規範を、一人一人が目指してケアにあたっている。本年度は身体拘束への取り組みが前進し、「指針」が確立したことで職員の意識向上とケア力アップにもつながっている。これからも地域の中の一軒家として、入居者の普段の生活を支えて頂きたい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・3つの理念をかかげ共有出来ている ・理念内容に対しても意識づけできている ・地域密着型としての実績は少ない	開所当時からの理念が長文であったことから、2年前に見直し、文章を簡素化することで端的でわかりやすくなるよう改善している。玄関や職員ロッカー、相談室などホーム内の数か所に掲示し、職員がいつでも目視できるよう工夫している。	理念が誰にでも受け入れられ、わかりやすいものになるようにと見直しが図られているが、誰のための理念かなど今一度内容を検討することで、職員のみならず、家族や外部に向けても理解が得られるものと思われる。また、項目ごとに職員が振り返る機会を持つことも必要と考える。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・外に出れば声掛け(挨拶)してもらえる ・地域の方々から、野菜の差し入れや花の苗に季節の花等頂く事がある ・気軽な訪問がある	入居者は職員とホーム周辺を散歩し、近隣の人々と挨拶を交わしたり、野菜の差し入れをもらうなど、近所付き合いができています。地域行事(竜神宮祭り)にはお菓子の差し入れをし、地元保育園にはこちらから出向き、クリスマス会や発表会のリハーサルを通じて 園児たちとの交流も継続している。また、中学生のナイストライでは法人の全施設を見てもらい、高齢者施設の役割や違いを体験してもらいながら、地域貢献に助力している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・年に一度は近所のボランティアが来所され入居 者と一緒にちまき作りを行っている ・近所の竜神宮祭りに、施設の方から見学に行っている			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・参加者より意見を頂き、安心したり反省したりしながら改善課題に取り組み、サービス向上に活かしている ・危機管理委員会の設置	地域の公民館を会場とし、行政など地域の代表者が参加している。本年度より義務付けとなった身体拘束の取り組みについては、“身体拘束委員会”の発足を会議の中で紹介し、ホームの姿勢を明らかにしている。	会議時間が30分という設定では、話し合いに不十分と思われる。今後は時間の検討や議事録を毎回統一し、発言者を明記するなどの改善を望みたい。また、代表家族ばかりでなく全家族への声掛けにも期待したい。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・事業所で解決できないことは、市へ相談を依頼している ・市の研修会に参加している	運営推進会議には行政や包括から職員が参加しており、ホームの現状を発信しながら情報を共有している。今回、身体拘束の“指針”作成にあたっては、双方の担当者より助言を受け、ホームの考えを示した内容を盛り込み完成させている。それらは運営推進会議でも紹介し、拘束への取り組みを発信している。市の相談員が来所しており、入居者の思いを確認しながら運営に反映させている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・身体拘束委員会を立ち上げ、職員間での勉強会や研修会に取り組んでいる ・記録を取ったり、必要な方は再検討したりとしながら職員間での話し合いができています	この夏、身体拘束委員会を立ち上げたことで、職員の意識も確実にアップしてきている。話し合いの中で、「一人で抱え込むことがなかったか」「夜勤の回数はどうか」「職員間のはき違いはないか」など、ストレスケアや入居者への不適切ケアに繋がる事柄について意見を出し合い、共有の機会をもっている。入居者へのボディチェックを実践し、センサーマット使用については、家族の了承を得ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・法人研修を行い、不適切なケアからの見直しにも取り組む努力を続けている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・必要と考える入居者の手続き等に関し、ミーティングでの職員の意見も考慮し、専門の方より指導を受けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・納得される説明を行っている ・契約内容の変更時にはその都度説明しサインを頂いている ・重度化に伴う負担等は家族と十分な話し合いをしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・意見箱は設置しているが、投函するより、日頃より家族からの率直な意見がその都度あり話しやすい環境にある ・意見を聞き出しやすい様にも努めている	ホームでは“家族会”が発足しており、6月の行事に合わせて会を開き、ボランティアや家族と一緒に「ちまき作り」を楽しんでいる。家族からは感謝の言葉が出るものの、運営に繋がる意見や要望はなかなか聞かれないのが現状の様である。入居者の要望は普段の関りから聞き取り、支援の中に反映させるよう努めている。	家族会の機会を運営に反映するために、家族が必要としている内容やホーム側が求める内容を絞り込み、アンケートを実施するのも良いと思われる。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・委員会を発足し、意見や提案を聞き入れている ・責任は殆ど事業所でみてる為、安心して働くことができる ・上肢に気軽に相談できる環境にある	日頃から職員意見を収集するために「ミーティングノート」を活用して、毎月の会議で紹介し検討するようにしている。ケア会議を兼ねており、入居者の現状を把握したうえで必要な支援内容を話し合い、高齢化が進む中、事故に繋がらない様意思統一を図っている。現在朝2時間の見守りや清掃の為に入る職員をはじめ、11名が在籍しており、人員配置にはゆとりがあると思われる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・解らないややりがいを感じない等の意見も聞く ・残業時間は殆どない状態にある ・勤務表でも夜勤の次の日は休日になっている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・法人内外での研修を受ける機会を計画的に設けている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・包括担当の地域のミニデイに協力依頼あり、共に開催支援を行っている - あまり必要性はないのでは・・・と思う職員もいる ・研修時良い機会として意見交換は行っている		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・情報を十分確認し、サービス内容や本人の人生観を大事にしている ・本人と話が出来る時は、しっかり傾聴し聞き取るようにしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・本人からの笑顔が見られ、家族からも安心感が得られるよう、十分に話し合いの場を設けている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・家族の状況や本人との関係を含め、良く聞き取り職員との話し合いの場を設け、本人の意向に添った対応をしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・日常生活で困っている事をさりげなく聞いたり一緒に洗濯物をたたみをしながら話したりしている ・不安になられない様目配り気配りをしながら表情の変化にも気掛けている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・年2回は、本人と家族と一緒に外出して頂いたり、又は自宅への帰省をお願いしている ・季節の衣替えのお手伝いをお願いしている ・自宅への連絡や送迎の支援を行っている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・以前住まれていた近所へ遊びに行かれたり墓参りに行かれる時の送迎支援を行っている ・近所のスーパーに買い物に出掛けている ・知人との連絡調整など可能な限り行っている	ホーム周辺にみかんやイチゴなど園芸を営む民家が多いことから、入居者の中には自宅のみかん山を気にする方もおられ、職員は散歩中にみかん畑を見学することで安心されるよう支援している。家族の面会や墓参りのための帰宅、昔なじみの地域行事相撲大会(諏訪神社)など、入居者のこれまでに関わった人や場所との関係性の継続と、「君が代」が流れると立って歌おうとされる習慣など、その方の生き方を大事にしながら対応している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・会話中興奮気味になられる時は職員が話題を変える様に対応している ・孤立されていないが注意を払っている・トラブルにならない様配置に考慮することもある		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・別の施設に移られたり病院へ入院された時は面会に行っている ・他界された時は職員でお悔みに行っている ・継続し相談支援も行っている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・ご本人を中心にご家族の意向も踏まえた話し合いをもとにプランニングをして再々話し合いの機会を持っている ・本人より希望を言ってくれる人もいて話し合いの場を設けなるべく意向に添うように努めている	入居者の意向を日頃の関りから確認し、家族の面会時には入居者の話をしながらゆっくり思いを聞くよう努めている。入居以前から歌や踊りが好きだった方が、ホームでも曲に合わせ座りながらも自然に手足が動くことなどをうけ、これまでの暮らし方ができるような内容をプランに繋いでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・生活歴や環境面を考慮した話題に努めている ・GHに慣れられる様支援したり今迄の暮らし方を尊重した対応をしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・心身状態は日々変化する事もあるので、早期発見で異常に気が付くようにしている ・本人のできる事、分かる事を見つけて本院の意欲を引き出すように努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・計画書の内容をスタッフ間で共有し合い、その変化していく状況に合わせて話し合い、検討し改善し、その方に合ったプランに作り替えている ・家族の面会時には利用者の状況を伝え意見も伺っている	計画作成担当者は、朝の申し送りや運営推進会議にも参加し入居者の様子や家族の意見、地域とのかかわりを確認したうえでプランを立案している。転倒のリスク回避にセンサーマットを使用する際は、身体拘束に関する説明をしたうえで同意書をもらい、様子を見て必要性がなくなった時点で使用中止をプランに入れている。内容は家族へ分かりやすい表現にて伝えられ、全家族から了承が得られている。	日々の職員のケアへの意識がプランに反映されており、今後も全職員が関わり、ホーム内研修などでプラン作成について共有する機会が必要と思われる。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・毎日の申し送りをスタッフ間で共有するようにしている ・申し送りと確認との繰り返しをしながらケアの統一を図っている・		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・生活の中での用具を活用したり、家族や地域の方にも相談し他方面からも意見を頂く様にしている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・協力病院からも支援を受けている・地元の理容店より来所され散髪を受けている ・餅つきではボランティアや民生委員、包括、近所の方々等に支援していただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・係り付けの医療機関を希望されるご家族はそのまま受け入れている ・重度化になった場合家族と医療機関の主治医とよく話し合ってもらっている ・家族同行受診もできている	これまでまでのかかりつけ医を希望される方には、継続して支援し、受診対応が困難な場合は、訪問診療が可能な医療機関の紹介を行っている。家族の受診時は情報を提供し、スムーズな受診ができるようにしている。また、家族の対応が困難であったり、職員の同行が必要な場合など柔軟に応じている。職員は毎日のバイタルチェックや食事・排泄・表情などから健康状態を見極め、気になることがあれば、看護職員と相談をしながら早めの受診対応を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・気づきを看護職と共有している ・日常看護師がいて、適切な処置や対応が受けられている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・看護職が情報交換や相談の窓口になっている ・良好な関係づくりに努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・看護師を中心に、問題が起こるごとに主治医に伝えて指示を仰ぎ、スタッフや家族の支援に取り組んでいる	入居時に重度化・終末期支援でホームに出来る対応について説明を行い、その時点での意思確認を書面で行っている。そのような状態になったら看護職員を中心に、主治医に相談を行い支持を仰ぎ、職員の負担や心配が減らせるよう、チームワークで取り組んでいる。直近の支援として、褥瘡を作らず、可能な限り入浴支援や泡シャンプーなど、清潔保持に努めたことや、家族が1週間寝泊まりされたことなど、個々に応じた最終の支援が行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・急変や事故発生時のマニュアルは掲示してある ・必要時は主治医報告と家族へ連絡取っている・NSからの勉強会を開催している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・危機管理委員会を立ち上げている・年2回の火災と災害の避難訓練を行っている ・地域の消防団より事業内の見学をされ、出入り口の確認や入居者人数の、車椅子、各年齢等の確認をされている(年1回)	危機管理委員会を中心に総合訓練を含め、年2回の避難訓練を実施している。地域消防団より、ホーム内の見学や入居者の状態の確認が行われており、有事の際の協力を依頼している。備蓄については、ホームと法人で確保している。職員は居室の掃除を行う際は、コンセントを抜いて実施している。	今後避難訓練を運営推進会議の中で行うことで、新たな目線での意見や気づきが聞かれるものと思われる。以前使用していたチェックシートによる安全点検も再活用を期待したい。食備蓄については、賞味期限確認日を設ける等取り組みに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・自由に生活して頂けるよう見守り、平等な声かけをしをしたりして対応している・同姿勢の目線でお話するようにしている ・時々プライバシーの話題は場所をわきまえ別室にて確認している	入居者の自由な生活を見守りと必要な介助で支援している。トイレ誘導や見守りもプライバシーに配慮して努めており、思いやりや気づくケアについても実践できているとしている。寝まきへの着替えは就寝直前に行っている。職員の守秘義務の徹底については、管理者より指導が行われ、個人情報情報の使用も家族の承諾を得、面会簿も個別記入としている。	車いすの介助について、特に曲がり角やスピードなど、気になる場面もみられた。安全面からも入居者の立場になって行っているか、振り返る機会を持たれることを期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・本人の思いが表に出やすい様口頃よりスキミングや笑顔で接しコミュニケーションをとっている ・笑顔が見られる様、本人の思いを十分に傾聴している ・解りやすい様ジェスチャーや短い言葉、二択での対応に心掛けている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・本人のペースに合わせたケアに心掛けている ・笑顔が引きだせる支援に心掛けている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・自分で入浴時の着替えを選んでもらっている ・起床時や口腔ケア時洗面台に本人のくしやタオルを届きやすいところに準備している ・自分で無理な方はスタッフが対応している・外出の服や防止を一緒に選んでいる		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	・食事の片づけが出来る利用者に食器洗いを手伝ってもらっている ・出来る方にテーブルを拭いてもらっている	系列事業所より副食が届き(昼・夜)、ホームでは朝食と主食の米飯を炊き、週2回(火・土)パンの日を設けている。入居者が調理に関わる機会はあまりないが、食材購入に同行したり、片付けや食器洗いなど出来る事で関わられるようにしている。訪問当日も台所に立ち、日課とされる食器洗いを手際よくこなされる入居者の姿があった。食事介助や見守りが必要な方も多く、個々に応じた食形態を確認しながら支援している。	管理者は家族へもホームの食への取組について知ってもらう機会を持ち、意見や感想を今後活かしたいとしている。取り組みに期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・摂取状態が悪い方は主治医に相談している ・食事や水分の摂取量を記録している ・体重の増減を認識した上での食生活を支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・口腔ケアの介助が必要な方には、ブラシやペーパータオルを使っている ・義歯の不具合や虫歯、揺らぐ歯の発見等、早めに気づく様に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・ご本人の排泄リズムに合わせ声掛け時間毎にトイレへ誘導している ・オムツ着用であったり、臥床時間が長い方でも昼間はトイレ誘導し排泄してもらっている	個々の排泄パターンを全職員で共有し、声掛けや誘導を行い、トイレでの排泄支援に取り組んでいる。また、臥床が中心になられた方へも、日中はトイレへ誘導している。使用するトイレも使い慣れた場所があり、職員は空きを確認しながら誘導している。排泄用品も昼夜で組み合わせを検討し、夜間もトイレやポータブルトイレを使用し、身体状況に配慮しながら支援している。個別支援の充実は、個々の尊厳や家族の負担軽減にも繋がっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・牛乳やヨーグルトを提供し、自然排便が出来るように配慮している ・出来るだけ動かれる様声かけたりレクレーションに参加し活動を促している ・排便雄ノコントロール表を作成し活用している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	・午前中に入浴になっている入浴表を作成し週2回以上の入浴に心掛けている ・本人の希望は殆ど聞けない・車椅子の方はリフト使用で浴槽入浴行っている	入浴は午前中を中心に週2～3回実施しており、車いす利用者にはリフト浴や、皮膚疾患時の対応など個々に応じて支援している。また、脱衣場も季節に応じて室温を管理し、気持ちよく入ってもらえるようにしている。現在、拒否をされる方はおられず、全員入浴を楽しみにされている。	脱衣所の洗面台に置かれた洗浄ボトルについては、保管場所への配慮が必要と思われる。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・部屋の温度調整に気配りをしている ・離床が難しい利用者は、食事の已は起床してもらっている ・天候次第では散歩や外出を行っている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・服薬の用法や副作用については看護師と共にスタッフ間で認識を深め状態観察をしている ・1日分の薬袋を取っておき、誤薬を防ぐ取り組みをしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・お茶碗洗いや洗濯物たたみに役割を以って手伝ってもらっている ・その方が好きなビデオを提供したり買い物行ったり歌ったりとそれぞれ好きなことに合わせ気分転換を図ってもらっている ・行事ごとにおやつ作りを取り込んでいる		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・季節に応じた外出はあるが、個別希望に応じた外出はできていない ・衣類購入や嗜好品購入には付き添い支援ができています	ホーム周辺を散歩したり、季節に応じた外出支援に努めている。個別の希望に応じた外出は不十分としているが、衣類や嗜好品をはじめ、買い物への希望には可能な限り対応している。買い物に出る際、財布や小銭を持つことで安心される方など、個々に応じ支援している。また、家族の協力を得た帰省や受診なども行われている。	暑さや寒さ、感染症など外出を控える時期もあることから、今後も気候や身体状況に配慮しながら外出支援に取り組まれることを期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・買い物に行きたいと言われる利用者には、立替と言う方法を取っている ・利用者の希望で財布の持参と小銭の持参はあるがそれだけでも安心される		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・本院が希望した時には連絡を取り中継ぎしてお話ができる ・手紙のやり取りはできていない		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・利用者と一緒に作成したものをホールの壁面に季節感ある装飾をし、楽しんでもらっている ・ベランダに出て外の景色を眺めてもらっている ・行事ごとの写真を貼り見て楽しませている	職員は季節に応じた壁面作りを入居者と一緒に行っており、外出やイベント時の写真の掲示と共に、本人や家族にとっても楽しみとなっている。また、リビングに集われている時は、歌や音楽・テレビ番組など、入居者の好みを反映しながら流すようにしている。ホーム内に加え、周辺や遠くに臨むミカンの色づきも入居者にとって居心地良く安心できる環境となっており、「外に行きたかな〜！」と、外出への要望を出される方もおられる。	日中使用しないポータブルトイレを日光干しする際は、避難の妨げにならないような場所で行うことが望ましいと思われる。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・1人になりたい利用者は自室に行かれています		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・本人や家族の希望で、写真やカレンダー、テレビや時計等をおいてある ・仏壇を持参されているご利用者もいる	居室への持ち込みについては、本人が馴染んでいるものを自由に持ってきて欲しいと伝えており、家族の写真や時計、使い慣れた寝具の他、テレビや仏壇などが持ち込まれている。衣類などを収納するために近年では、プラスチックの3, 4段ケースが多くなっている。また、熊本地震発生後は、引き出しが落ちる危険性からタンス類は持ち帰りを依頼するなど、これまで以上安全面に配慮した環境作りを心掛けている。衣替えは家族を中心に行われており、寝具も可能な限り持ち帰ってもらい、損傷の確認と保管を依頼している。	天候の良い日は努めて寝具を日光にあて、気持ちよい安眠に繋げている。今後も家族と連携を図りながら、入居者にとって居心地よく過ごせる居室環境に努めていきたい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・トイレ場所の矢印を目立つように張り付けている ・夜間のセンサーもトイレの外に設置している		